

命の尊さを問いかける本が話題となっています。  
今年95歳になる聖路加国際病院の日野原重明  
理事長が書いた「10歳の君へ」です。

昭和の初期、日本人の寿命は42～3歳でした。  
現在女性の平均寿命は85歳ですからずいぶん  
長生きになったものです。しかし、寿命とい  
うのは最初から与えられた命を削っていくの  
ではなく、空っぽな器に命を注いでいく。精一杯  
生きた一瞬一瞬を詰めていくこと。一瞬一瞬を  
意識して大事に生きること、それが寿命だと言  
います。

そして、その時間は自分のためだけでなくほか  
の人のために使ってほしい。

でも、長い人生には思い通りいかないことも多  
い。そんな時に忘れないでほしい。君が生まれ  
てきたことはそれだけで素晴らしいことです。  
君が生まれた時周りの人はどんなに幸せに包ま  
れたことでしょう。君がいて私がここにいる。  
それは本当に素敵なことです。

寿命、人間、家族、世界平和・・・、10歳の  
子ども達に多くのことを語りかけています。

#### <第141回 ほほえみの会>

新しい方をはじめ5人の参加でした。

2歳女の子、卵黄嚢腫。最初の抗がん剤治療で9センチあった腫瘍  
が3センチになった。肝臓に転移をしている腫瘍も小さくなった。  
薬が効いてくれてありがたい。小さくなったら手術をすることにな  
っており2回の抗がん剤治療の後、予定を早めて手術が出来そう。  
胸に点滴の管を差していたが自分で取ってしまった。手術時にカテ  
ーテルを入れることになる。



2歳5ヶ月男の子、悪性脳腫瘍。検診以外で病院にかかったこと  
のない元気な子が11月中旬から元気がない。12月に入って頭が痛  
いと指差す。近くの小児科では問題なし。大晦日に起きられなくな  
り当番の市立病院へ行ってCT検査で腫瘍がわかる。元旦に脳から  
水を抜く。正月4日に開頭手術で腫瘍摘出。その後抗がん剤治療。  
今後は自宅で飲み薬の抗がん剤。

小学3年の兄がいるので主人と交代で面会に。両親に来てもらうの  
も大変で兄は近所の家で夕方まで面倒を見てもらっている。どこま  
で面倒をかけていいものか迷う。

今後、自宅での治療になる。子どもは元気でやんちゃだが外には出  
せない。家も狭くストレスも溜まるのでどうするか悩む。自分の体  
調管理も大変だし、精神的にも不安定なので宗教の勧誘などあつた  
らどうしようかと心配。

薬局が院外処方になったことで不便が多い。特殊な薬で置いていな  
い薬局が多く、病気の説明もその都度しなければいけない。

病気になったことは大変だけど、本人や家族にとってプラスのこ  
とも多い。子どもと一緒に親も成長をする。幸せを感じることも増え  
る。あの病気を乗り越えられたから何でも乗り越えられると思える。  
といった話も出ました。

病院を訪ねて笑いを届ける「ホスピタルクラウン」をテレビで取り  
上げていました。本も出版されました。笑いは病気を治す大きな力  
になります。こども病院にも来てほしいな「クラウンK」

次回は 3月 11日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k\_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>